虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です。

虹のかけ橋

第２００号
平成24年４月1日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL 0277－73－1212
Fax 0277－70－1066

今月の題字
松﨑和子
（足利屋店長・子供達の母親・妻）
「靖ちゃん日記に私の事は書かないで」と言いながらも「虹の架橋」を陰で支えてくれていることに感謝。愛犬プーちゃんの優しいお母さんでもあります。

人と人の心に橋を架けて六千余日
お蔭様で「虹の架橋」２００号

平成７年９月に創刊した「虹の架橋」がお蔭様で２００号を迎えました。毎月１日に新聞折込で１万部発行するほか、インターネットで国内だけではなく、海外でも読んでくださる方もいて、そのご縁が大きな財産になっています。小さな新聞ですが、「コツコツ、休まず、背伸びせず」をモットーに続けたいと思います。

足利屋の店内では、これまで発行した「虹の架橋」や、ご縁のある方から頂いた色紙や絵や写真などを展示しています。お買物の合間に是非ご覧下さい。

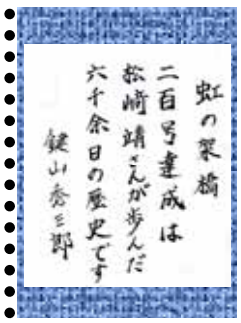
虹の架橋の読者の方からたくさんのご感想もいただきました。

「我家に新聞が届くのは毎朝三時五〇分頃です。一日は、どんなに寒くても、すぐに虹の架橋だけ読んで、また二度ねむりです。毎月一日を楽しみにしているおばさんが居る事を覚えていてください。（大間々町・Ｉさん）

「いよいよ記念すべき２００号ですね。『竹に上下の節目あり』　節目があるからこそ、しなやかな力で倒れそうになりながらも元に戻るのだと氣付きました」（兵庫県・Ｋさん）

尊敬する鍵山秀三郎さんに「虹の架橋二百号達成は、松﨑靖さんが歩んだ六千余日の歴史です」と色紙に書いていただき感動してしまいました。

引き続き、ご感想をお待ちしております。



小耳にはさんだ いい話
（文責・靖）
《200》

２０年ぶりの授業参観

インターネットで配信している『２０年ぶりの授業参観』という動画が地域の話題になっています。この動画は、２０年前、みどり市立福岡西小学校で教鞭をとっていた針谷先生が当時の教え子達に「２０年ぶりの授業参観」を呼びかけ、２月に福岡西小で実際に行われた授業参観の様子が紹介されています。

針谷先生が教え子達に送ったお知らせには「お母さんやお父さんの思いやりに、あの頃は言えなかった『ありがとう』を作文で伝えませんか」と記されており、追伸には「授業の前日は実家に泊り、お父さんやお母さんの思いやりをたくさん見つけてきて下さい」と書かれていました。

授業参観の前日、福西小の卒業生たちは、自分の子供達を連れて実家に帰り、家族の温もりや絆を実感しました。

授業参観当日、大人になってはじめて訪れる教室で幼馴染との再会。そして、両親や幼いわが子の前で、一人ひとりが「宿題」の作文を発表。

「…母は毎日朝早くから洗濯を干し、仕事に行き、家に帰ってきても休む暇なく家事全部をこなしていました…」

「…私は生まれたとき、低体重児で右の肺が開かず、自分で呼吸することができない状態で生まれました。『ごめんね、こんなに小さく産んでしまって』、と謝りながら…」

（涙、涙、涙）…大人になった今でも、お父さん、お母さんの書き残してくれた日記は私の宝物です」

「…お父さん、お母さん、ありがとう。なかなか言う機会もないので、たくさん言っておきます。ありがとう、ありがとう、ありがとう。私は今、とても幸せです…」

みどり市立福岡西小学校は１３７年の長い歴史に幕を閉じ、３月２５日、４４名の児童と多くの地域の人たちや関係者が集まり、感動的な閉校記念式典が行われました。

式典の最後に、在校生が４月から通う大間々北小の金管バンド部員４０名が福西小の校歌を演奏し、全員で合唱。最後は涙、涙になりました。

「みどりの大地、青い空、笑顔輝く福岡西小学校」が卒業生や多くの人たちの心の中で生き続けてくれることを祈りました。

世界一小さな 足利屋 トイレ美術館

今月の作品《200》

松﨑 靖『赤富士』

去年の７月から「たけし、まさし、やすし」の中年３人組で絵を習い始めました。年に３枚～４枚描き、「６０の手習い」の成果として、いつか「３しの会展覧会」を開くのが夢です。

『赤富士』は晩夏から初秋の早朝に見られる富士山の朝焼けで、赤富士の絵を東に向けて飾ると運気が高まるといわれています。世界一小さな足利屋トイレ美術館は創刊号から毎月１枚、絵や写真等を紹介し、今回が２００枚目です。小さなトイレの東向きの壁面に赤富士を飾りました。「ウン気」が高まるかもしれません。

靖ちゃん日記

3月22日（木）

オヤジ携帯のラクラク・フォンからスマート・フォンに替えた。ラクラク・フォンは、電話と手帳と万歩計と目覚しの一台4役だったが、「スマホ」は、地図もニュースも動画も見られ、取引先の在庫状況も瞬時に確認できる。スマホは、文字が小さく、使える機能が多すぎて、最初は戸惑った。

娘の恭子に頼んで、使いやすいようにメニューを整理してもらった。使いこなせれば、こんなに便利なものはない。

インターネットの「音声検索」の機能には驚いた。スマホに向かって「マツザキヤスシ」と言うと、「虹の架橋」や「足利屋洋品店」、ぐんまの名物商人」などのホームページを見ることもできる。

アンテナを立てればテレビも観られる。でも、問題は「電磁波」だ。身体に悪いので、持ち歩く時は、ズボンや胸ポケットには入れない方がいいと言われたが、他に入れる所はない。電磁波で下半身のアンテナをやられる方が怖いので、胸のポケットに入れておくことにした。

身を尽くし逝きし人あり仏の座

ご主人に尽くし、家族を護り、会社の発展を陰で支え続け、私たち夫婦にとっては仲人親でもあった尊敬するお方が逝ってしまいました。

星野富弘さんの「別れ」という詩の中に「できることならあなたに幽霊になってもらってでも もう一度逢いたいのです」という言葉があります。三界草（仏の座）の絵に添えられた「別れ」の詩は遺された私達の共通の思いです。

１２年前、仲人親様に頂いた「亡き人を案じる私達が亡き人から案じられている」という言葉をかみしめています。

さらさ・２０年ぶりの授業参観 ⇑検索で、インターネットからご覧いただけます。

第２０１号は５月１日（火）発行予定です。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん